

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 48人

② 算数 48人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

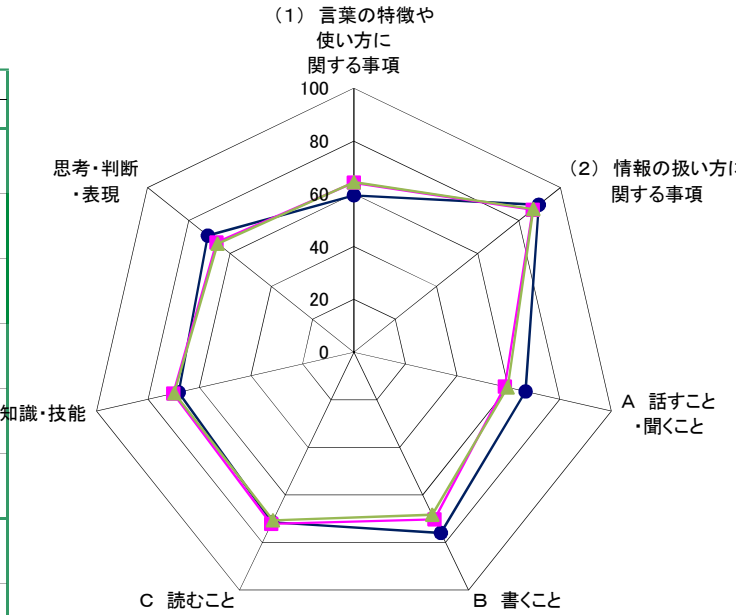
宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況



【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	59.4	64.2	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	89.6	86.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.3	77.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	66.7	58.6	59.8
	B 書くこと	76.0	70.3	68.4
	C 読むこと	71.5	72.2	70.7
観点	知識・技能	68.1	70.2	69.8
	思考・判断・表現	70.8	66.6	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○文の中における主語と述語の関係を捉えることができています。授業の中で、それぞれの分の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、学習を進めている成果であると考えられる。 ●話し言葉と書き言葉の違いを理解することに課題が見られる。	・今後も、国語の学習に留まらず、いろいろな場面において主語と述語の関係に着目して文章を読み解くよう指導していく。 ・情報や自分の考えなどを伝えるときには、話す順序に気を付けて、短い文章で簡潔に伝えることができるよう指導していく。 ・文章を書く学習活動と書き記した文章を相手に伝える学習活動などを通して、話し言葉と書き言葉それぞれの特色や役割に気づかせるとともに、語感や言葉の使い方を意識して語や語句
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解することができている。ウェビングマップを取り入れて、短歌を作ったり自分の考えをまとめて文章で表したりする活動で、ウェビングマップを取り入れてきた成果であると考えられる。	・今後も、思考を広げたりまとめたりするツールとして、ウェビングマップを活用し、授業を展開していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○読書が、自分の考えを広げることに役立つと捉えている。読み聞かせや図書室でのイベント活動など読書活動の推進による成果であると考えられる。	・今後も、読書活動を推進するとともに、読書の時間を通して、本を読んで考えることを記録したり友達と意見交換をしたりして、読書が自分の考えを広げることを自覚させる機会を確保していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができている。係活動や授業での話し合い活動など、自分の考えを表現する機会を多く取り入れている成果であると考えられる。 ●発表内容を検討したメモが、どのように意図で整理されているのか捉えることに課題がある。	・今後も、自分の考えを表現する機会を多く取り入れるとともに、ハンドサインを取り入れて他者との意見交換を活発にできるよう指導していく。 ・目的や意図に応じて内容を検討し、他者に伝える学習の場を取り入れるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。日記指導や行事の後の振り返りなど、自分の考えを文章で表現する機会を多く取り入れている成果であると考えられる。	・今後も、自分の考えを文章で表現する機会を多く取り入れるとともに、推敲にも目を向けさせ、分かりやすい文章を書くことができるよう指導していく。

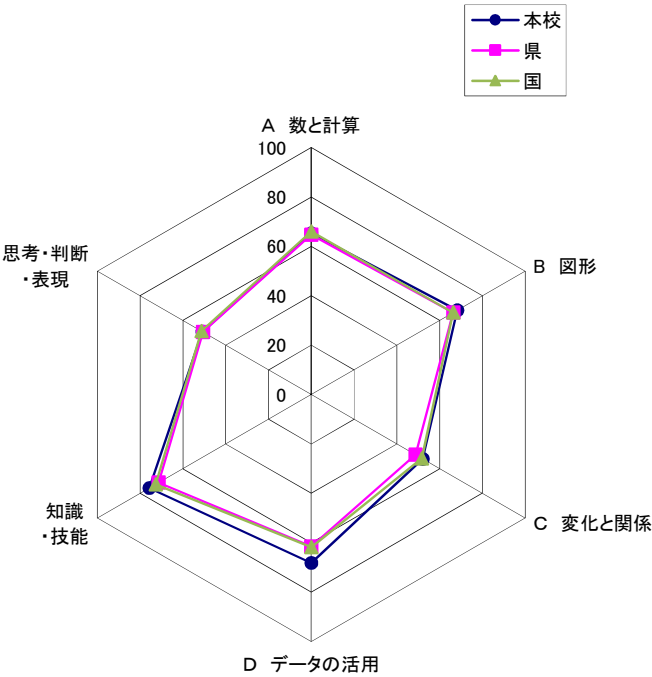
C 読むこと	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えることができています。行動や会話、情景などから暗示的に感じ取れることにも目を向けながら、物語文を読み深めてきた学習の成果であると考えられる。 ●物語の登場人物の人物像を具体的に想像する	・今後も、行動や会話、情景などの描写に着目させながら、登場人物の相互関係や心情について考えられるよう授業を組み立てていく。 ・登場人物の人物像を具体的に想像することができるよう、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結びつけ、それらを基に性格や考え方などを統合して判断させていく。
--------	--	--

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	65.3	64.7	66.0
	B 図形	68.2	66.3	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	52.1	48.7	51.7
	D データの活用	68.2	61.5	61.8
観点	知識・技能	75.7	71.4	72.8
	思考・判断・表現	50.9	50.7	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○徐数が小数である場合の除法の計算をすることができる。除数が小数である場合の除法の意味や計算のしかたを、整数の計算の考え方をもとにして、学級全体で協働的に学習した成果であると考えられる。 ●問題場面の数量関係をとらえ、式に表すことに課題がある。	・問題場面を具体的に読み取ったり、文字に順序良く数をあてはめたりして、問題解決に生かせるようにするために、これまで学習した□や文字、数直線などを使って、問題場面を把握し、伝え合う練習を意識して取り入れていく。
B 図形	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解が高い。具体物を活用し、直径と円周、円周率の関係について、測定する活動を取り入れながら学習した成果であると考えられる。 ●角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述することに課題があった。	・五角柱について7つの面で成り立つことは理解している児童がほとんどである。いろいろな角柱について、それらの底面と側面がそれぞれいくつなのかを具体物を使って確認し、角柱の底面と側面の数の関係について考え、その規則性を言葉と数を用いて伝えあう活動を取り入れていく。
C 変化と関係	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○家から図書館までの自転車の速さが分速何mかについて求める問題ができる。速さについて、生活場面と関連した学習問題を設定し、見通しを立て自力解決したり、学級全体で考えたりして取り組んだ成果であると考えられる。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察しながら問題を解くことに課題がある。	・速さは、時間と道のりの2量が関係する数量であることに着目できるように、時間の長短のみで「速い」、「遅い」を判断している場合を意図的に取り上げ、単位量あたりの考えをもとに速さの比べ方や表し方について丁寧に考えさせるようにする。また、速さ、時間、道のりについての求め方をもとに正確に練習問題に取り組ませるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することができる。1目盛りの値を捉えながら、グラフから分かったことについてグループで話し合ったり、全体に考えを伝えたり聞き合ったりして思考する場面を設定した成果であると考えられる。	・表やグラフから必要な情報を読み取ることは概ねできている。身の回りの事象について興味・関心をもち、データを収集、表やグラフに整理し、その特徴をまとめたり、話し合わせたりできるような場を設定していく。また、データの活用の指導にあたっては、一人一台端末を積極的に活用していく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」で肯定的な回答をした児童の割合は、98.0%であり、県の平均よりかなり高い。このことから、普段の学習において知識技能が定着するよう習熟を図ったり、テストでの間違い直しを徹底したりしていることが、結果として現れていることが分かる。今後も、分かるまできめ細やかな指導を継続していきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」で肯定的な回答をした児童の割合は、96.0%で、県の平均より高い。このことから、教師が一人一人のよさを認め励ます声掛けを意識的に行っていることが分かる。引き続き、児童の自己肯定感を高めていけるような声掛けを継続していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)」で否定的な回答をした児童の割合は、12.0%であり、県の平均より高い。このことから、学校外での学習習慣が身につけていないことが分かる。今後は、学習した内容を定着させていくために、自主学習等で使える教材を積極的に活用したり学習方法についてのアドバイスをしたりし、学校外での学習習慣の定着に向けて支援を呼びかけていく。